

真性小眼球の検討に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年 2月 3日 ～ 2021年 3月 31日

〔研究課題〕

真性小眼球の検討

〔研究目的〕

小眼球は発生率 0.0005% の稀な疾患です。そのうちが眼球の大きさが正常の 0.87 倍以下で眼球に器質的な異常がないものを真性小眼球といいます。真性小眼球は器質的な異常はなくても網膜の血管が蛇行していたり、網膜が正常より厚くなっていたり、角膜が小さかったりします。近年、網膜干渉断層計（以下 OCT）の発展により数年前から OCT angiography により網膜血管が造影剤を使わなくても撮影することが可能となりました。正常では網膜中心窩（物を見るところ）は血管がないとされていますが、真性小眼球では網膜中心窩に血管があるという報告があります。

今回の研究で真性小眼球数例を含む小児の高度遠視症例の視力、眼軸、網膜無血管領域、網膜厚、前眼部分を比較検討することで未だ不明な点が多い真性小眼球の病態を知る一助となります。

〔研究意義〕

稀な疾患である真性小眼球の病態把握につながります。

〔対象・研究方法〕

対象は 2016 年 1 月から 2019 年 12 月末日までに帝京大学医学部附属院眼科外来を受診した真性小眼球を含む +6 D 以上の高度遠視のある 4 歳以上 15 歳未満の小児に対し、診療の一環で測定した OA-2000 による眼軸長、視力、調節麻痺薬を用いた精密屈折検査、前眼部三次元画像解析 CASIA（以下前眼部 OCT）、網膜 OCT、OCT angiography による結果を後ろ向き研究として検討します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 眼科外来

〔個人情報の取り扱い〕

年齢、性別、検査結果のみとし、すべて匿名で処理します。研究責任者は保管対象の記録類一式を封緘に詰め、帝京大学臨床研究センターに提出し、10 年間保管後に廃棄します。

対象となる患者様の保護者の方で、お子様の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者： 佐々木 梢 副主任

所属： 帝京大学医学部附属病院 眼科外来

住所： 東京都板橋区加賀 2-11-1

TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 30327]